

令和 8 年度米子市地方創生有識者会議 議事概要

[日 時] 令和 8 年 8 月 20 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで

[場 所] 米子市役所 4 階 401 会議室

[出席委員] 森田委員（座長）、高増委員（副座長）、伊藤委員、兒嶋委員、岡村委員、小川委員、鹿子生委員、深田委員、浦林委員、西谷委員、小谷委員、澤田委員、拜藤委員、田辺オブザーバー

[欠席委員] 松本委員、神戸委員、齊木委員、平田委員

[出席職員] 伊澤副市長、西川総合政策部長、成田文化観光局長、頼田観光課長、渡部スポーツ振興課長、大塚文化振興課長、上場商工課長、宮本企業立地支援課長、國谷こども政策課担当課長補佐、山川こども相談課長、最上情報政策課長、小西福祉政策課長、桑本フレイル対策推進課長、倉本交通政策課長、藤堂まちづくり企画課長、遠藤地域振興課長補佐、中原都市創造課長補佐

[事務局] 松本総合政策課長、池田総合政策課室長、末次総合政策課係長

（※いずれも順不同。）

以下、議事概要（※議事進行及び資料説明は省略）

1 開 会

2 新任委員紹介

3 副市長あいさつ

本会議は第 2 次まちづくりビジョンの初年度（令和 7 年度）の取組状況を報告し、意見をいただく場である。国においては 7 月に「地域未来戦略」が公表され、年内に「人口戦略」が発表される予定である。

急速な少子高齢化や AI をはじめとする情報技術の発展など社会の変化が著しい中、この地域の未来の形を作っていくため、各界の有識者の皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。

4 座長あいさつ

令和 7 年度の米子市の人口動向は 4 年ぶりに社会増に転じたものの、総人口の減少傾向や人手不足・物価高騰など厳しい状況が続いている。一方で、国の新戦略や米子・境港間高規格道路のルート選定など今後の動きも進んでいる。

令和 7 年度の事業評価を踏まえ、令和 8 年度以降の取組の加速や改善に向け、活

発な議論をお願いしたい。

5 議 事

(1) 「第 2 次米子市まちづくりビジョン」令和 7 年度の実施状況等について

【米子市 池田総合政策課室長】資料説明（資料「全体概要」及び「1」～「4」）

【森田座長】人口動向で「外国籍住民の転入増による社会増」という話があった。商工会議所で昨年、会員企業向けに「外国人労働者の雇用」に関するアンケートを実施したところ、現在雇用している企業が約 7.4%、今後雇用したい・検討したいという企業が約 15%という結果が出た。今後も外国人材の受入や雇用は増加傾向にあると感じている。

(2) 「第 2 次米子市まちづくりビジョン」今後の改定方針について

【米子市 池田総合政策課室長】資料説明（資料「全体概要」及び資料「5」）

【高増副座長】改定方針の具体的なスケジュールについて伺う。

【米子市 末次総合政策課係長】国の人口戦略が年内に公表された後、鳥取県が今年度内に改定を行う見込みである。市としてはそれらを受け、今年度末から来年度当初にかけて改定作業を完了させる予定である。

(3) 意見交換

【森田座長】米子・境港間高規格道路について、3ルート案からルート帯が絞られた後は、都市計画決定等の手続きが必要となるため、遅れないよう対応を願う。また、インターチェンジの設置や周辺の土地利用の変化を見据え、ビジョンにある「工業団地の造成」も含め検討を進められたい。

【伊藤委員】自社グループ新入社員 118 名の研修を、米子にて 9 泊 10 日で実施した。食や景観、地域住民の温かい声掛けが好評で、移住や再訪に前向きな声が多く上がった。次年度も実施予定であり、関係人口創出の好例と考える。また、昨今の災害多発を踏まえ、水道等のインフラ補修や耐震化など、優先度をつけたスピード感ある防災対策を求める。

【児嶋委員】資料において周辺自治体の人口減少を懸念しつつも、取組に広域連携の記述が少ないと感じられた。市に与える影響が大きいため、位置づけを強化されたい。また、災害が少ないという米子市の強みを生かし、対策推進と PR を行い、企業誘致や人口維持につなげてほしい。

【小川委員】先般、7月に「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルート指定がなされたが、これはゴールではなくスタート。広域での受入態勢整備や滞在時間の延長に、市と連携して取り組みたい。また、新規創業・誘致だけでなく、長年地域で雇用を守り続ける地元の小規模事業者に光を当てた施策を検討されたい。

【岡村委員】国や県と連携することは重要だが、それらの動きに合わせるだけでは全国共通のビジョンにしかない。米子市ならではの独自性や魅力を打ち出したビジョン改定が必要。どこかの地域と比べても同じような戦略にならないよう、米子の強みを深掘りされたい。

【鹿子生委員】新規創業件数が累計190件と高い水準にあることを評価する。金融機関・商工会議所・よろず支援拠点等の支援ネットワークを更に強化し、創業前から創業後まで切れ目なく支援できる仕組みづくりが必要である。

【深田委員】ビジョンの評価・方針において、「少子化」「人手不足」「DX推進」という3つの分野横断課題の視点を一層盛り込むとよい。また、数値目標は達成・未達成だけでなく、要因の深掘りや解釈が重要。さらに、小中学校でのふるさと教育に加え、高校生に対しても将来のUターンにつながる魅力伝達の機会を積極的に設けてほしい。

【田辺オブザーバー】若手職員が、保育園の入所目処が立たず市外（大山町）に家を建て転出した事例があった。子育て世帯が定着できるよう、保育ニーズへの対応や情報提供をしっかりと行うことが重要である。また、DX時代を見据えた都会地からの人口還流の受入のため、職場環境の一層の整備が求められる。

【拜藤委員】弊社が県・大学と連携し実施した若者意識調査では、県内に残ることがキャリアを開きやすそうに見える一方、挑戦しやすい環境という認識もあることが判明。また、女性活躍に対する男女の認識ギャップ（男性よりもむしろ女性のほうが意識が低い）も存在している。魅力や取組が若者・女性に十分に届いていないため、企業等と連携した情報を伝えるためのアプローチの仕組みが必要である。

【澤田委員】米子駅南側の開発、米子アリーナ、三の丸広場などの整備が進み、歩いて楽しいまちづくりを推進する好期を迎えている。若い世代の発信ニーズがある「アート」「音楽」と連動するなどし、これらを面として回遊させる仕掛けが必要。また、米子市出身の経済学者である宇沢弘文氏の「自動車の社会的費用」「社会的共通資本」の理念（人中心のまちづくり）を背骨として共有し、メディアとしても連

携して発信していきたい。

【小谷委員】商都のイメージが強い米子であるが、昨年度の市内求人数のトップが「卸売・小売」から「医療・福祉分野」（全体の22%）に逆転した。医療・福祉は暮らしを支えるだけでなく、雇用・経済の基盤であり、女性の活躍が多い分野でもある。鳥取大学医学部附属病院をはじめ、多くの医療機関や介護事業者が集積する米子市の強みとして、ハローワーク等と連携した見学ツアーや人材育成など、これを生かす取組と一緒に検討いただきたい。

【西谷委員】ふるさと教育の取組を評価する。一方で、観光面では皆生温泉・米子城跡、米子アリーナなどの資源を連携させた全体的な取組が必要である。ビジョンの柱建てがそれぞれ異なるようだが、市内でも積極的に連動いただきたい。また、安心して子どもを育てられる保育環境（年度途中の復職対応等）の整備が不可欠である。

【浦林委員】4月に異動し、初めて米子市で生活をしているが、コンパクトで生活機能が揃っており、交通の要衝としてもポテンシャルが高い。一度県外に出た若者が戻りたくなる魅力発信と職場環境づくりを金融機関としてもサポートしたい。

【高増副座長】昨年度よりも公民館の取組が推進されていることを評価する。また、米子工業高等専門学校では、学生寮が存在するものの、長期休暇中は閉寮している。県立高校でも県外・遠方からの学生受入に色々と工夫をされているとのことであり、公営住宅の柔軟な利活用（シェア利用等）など連携できるとよい。また、米子港や米子アリーナなど新施設の質の高い利活用（カフェや滞在空間の充実）や、湊山公園に計画する鳥取大学医学部附属病院・米子市児童文化センターと大学体育館との複合施設、米子駅周辺の利用促進施策を期待する。

【米子市 西川総合政策部長】（※各委員のご意見に対して）

（森田座長のご意見に対して）米子・境港間高規格道路の遅れや注意点について漏れないよう実施し、土地利用や新産業用地の検討を進める。

（伊藤委員のご意見に対して）100名超の研修実施に感謝する。次年度についても全力で対応・支援していき、本市の活性化や関係人口形成につなげたい。

（児嶋委員のご意見に対して）周辺自治体の影響を踏まえ広域連携を推進する。災害の少なさも強みとして受け止めており、対策推進と情報発信に努めたい。

（小川委員のご意見に対して）市内でも自転車活用を検討しているところ。観光的な活用にとどまらない広範な計画となる見込みであるが、サイクルツーリズムも観点に入れたものを検討したい。小規模事業者の重要性も認識し支援に取り組む。

（岡村委員のご意見に対して）ビジョンの改定については、国県の動きを意識しつつも、地域の独自性（食・景観・医療・交通）を反映させた改定を行ってまいりたい。

（鹿子生委員のご意見に対して）中海圏域などの連携も踏まえつつ、創業支援における金融機関や関係機関との連携を継続・強化する。

（深田委員のご意見に対して）横断課題の見せ方を工夫しつつ、数値として表れる部分はもちろん、数値に表れない部分も総合的に判断して評価を行っていく。

（田辺オブザーバーのご意見に対して）働く場所の重要性を念頭に置き取り組む。

（拜藤委員のご意見に対して）若い世代への情報伝達・アプローチは課題として認識している。男女共同参画の観点も含め、てこ入れを行っていく。

（澤田委員のご意見に対して）車中心から人中心への転換を踏まえ、課題を認識しつつ、取り組んでいく。また、冬の駅前通りのイルミネーションなど行うこととしており、メディアの皆様とも連携しながら情報発信を図り、地域の理解を得てまいりたい。

（小谷委員のご意見に対して）鳥取大学医学部附属病院は、職員、関係者を含め 6,000 人規模の職場環境であるとも伺っている。医療・福祉分野は、本市の重要基盤、職場産業として認識しており、国の制度なども活用しながら検討してまいりたい。

（西谷委員のご意見に対して）横断的に取り組む項目は、各所属で連携したい。例えば米子アリーナについて、スポーツ振興の観点のみならず、飲食等も含めた賑わいの場とできるように研究してまいりたい。

（浦林委員のご意見に対して）本市の都市機能がコンパクトにまとまった暮らしやすさは、他所でも評価をいただいている。一方で、二次交通の整備などの課題も認識している。今後とも、一度県外へ出た若者が将来本市へ戻ってこられるよう、故郷への愛着を育む環境づくりを一層推進していく。

(高増副座長のご意見に対して) 学生寮については、例えば中心市街地の空き土地を活用し、民間ベースで進められることが望ましいと考えるが、公営住宅の利活用については研究してまいりたい。公民館のあり方検討・活用は、現在力を入れて取り組んでおり、引き続き推進していく。鳥取大学医学部附属病院周辺の公園や米子市児童文化センターの整備と合わせ、共創施設・カフェ等の整備も調整中である。

【米子市 伊澤副市長】(※補足及び総括)

(森田座長のご意見に対して補足) 米子・境港間高規格道路については、まだルート帯がどこになるか分からないが、既に示されている3つのルート帯案を想定しながら、人流・物流や都市計画への影響を踏まえた内部検討を進めている。当該道路をしっかりと米子のまちづくりに生かしてまいりたい。

(田辺オブザーバー・西谷委員のご意見に対して補足) 現在、想定以上の出生数減少により、全体枠としては定員に相当の空きがあり待機児童はゼロであるが、特定の保育所への希望集中や辞退等のミスマッチが存在する。DXツール等を活用して情報発信・伝達を強化していく。

(澤田委員・高増副座長のご意見に対して補足) 本年末頃に実施予定である駅前通りイルミネーションや、9月からの皆生海遊ビーチでのプロジェクションマッピングなど、地元企業(LED・照明演出技術)とタッグを組んだ「光を使ったまちづくり」を展開する。また、中海憩いのテラスの後背地については、民有地であることから、当該立地を生かした民間活用をいただけるよう、協議を続けているところ。

(総括) 本日は、大変貴重なご意見をいただいたことにお礼申し上げます。地域の魅力を未来に向かってどう作っていくのかという観点が、若者の定着・回帰も含めて重要と考える。存在しないものをゼロから作ることは難しいが、地域の魅力を再発見することは比較的容易。地域の魅力は誰かから与えられるものではなく、市民の皆様、事業者の皆様と一緒に、地域が自ら気づき獲得し育てていくものである。本市の資源を再度磨き上げ、官民一体となって「住んで楽しいまちづくり」を進めていきたい。

6 その他(特になし)

7 閉 会